資料５

# 審　議　事　項

| | 件名・議案 | 提案者 | 資料<br>(頁) | 提案理由等<br>(※シンポジウム等、後援関係については概要を記載) | 説明者 | 根拠規定等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ　審議事項等** | | | | | | |
| **１．委員会関係** | | | | | | |
| **提案1** | （分野別委員会）<br>(1)運営要綱の一部改正（新規設置1件、設置期間の変更１件） | （1）地域研究委員会委員長、経営学委員会委員長 | B(7-8) | 小委員会の設置等に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。 | 各部部長 | 内規18条 |
| **提案2** | （若手アカデミー）<br>(1)若手アカデミー分科会設置提案書の一部変更（構成員の数（定員）の変更等）<br>(2)若手アカデミー分科会委員の決定（追加1件） | 若手アカデミー代表 | B(11-12) | 若手アカデミー分科会における構成員の数（定員）の変更等に伴い、設置提案書を一部変更すると共に、若手アカデミー分科会における委員を決定する必要があるため。 | 三成副会長 | 若手アカデミー運営要綱第5の4及び第8の2 |
| **２．地区会議関係** | | | | | | |
| **提案3** | 地区会議運営協議会委員の追加の決定について | 科学者委員会委員長 | B(13) | 中部地区会議運営協議会において、委員の退任により第二部関係の委員が少なくなり、また、静岡県在住の委員がいなくなったことから、第二部に関係した活動及び静岡地区における活動のため、必要な委員を追加するもの。 | 三成副会長 | 地区会議運営要綱第6の2 |
| **３．提言等関係** | | | | | | |
| **提案4** | 提言「2020年のオリンピック・パラリンピックに向けた日本紅斑熱・SFTSなどのダニ媒介感染症対策に関する緊急提言」について日本学術会議会則第２条第３号の「提言」として取り扱うこと | 健康・生活科学委員会委員長 | C(1-15) | 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。<br><br>**※第二部査読** | 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会　武林亨委員長、秋葉澄伯幹事 | 内規3条1項 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 提案5 | 報告「老朽・遺棄化学兵器廃棄の安全と環境の保全に向けて」について日本学術会議会則第２条第４号の「報告」として取り扱うこと | 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長 | C(17-97) | 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会において、報告をとりまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。<br><br>**※第三部査読** | 老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会　岸田伸幸幹事 | 内規3条1項 |
| 提案6 | 回答「人口縮小社会における野生動物管理のあり方」について日本学術会議会則第２条第５号の「回答」として取り扱うこと | 人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会委員長 | C(99-155) | 人口縮小社会にお野生動物管理のあり方の検討に関する委員会において、回答をとりまとめたので、関係機関等に対する回答として、これを外部に公表したいため。<br><br>**※科学と社会委員会査読** | 人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会　梶光一副委員長、横山真弓幹事 | 内規3条1項 |

４．協力学術研究団体関係

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 提案7 | 日本学術会議協力学術研究団体を指定すること | 会長 | B(15) | 日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。<br>①東海公衆衛生学会<br>②日本健康支援学会<br>③日本簿記学会<br>④ファンクショナルフード学会<br><br>※令和元年7月25日現在2,043団体（上記申請団体を含む） | 三成副会長 | 会則36条1項 |

５．国際関係

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 提案8 | 令和元年度代表派遣<br>(1)実施計画に基づく派遣者の決定（９～３月期）<br>(2)実施計画の追加及び派遣者の決定 | 会長 | B(17-19) | 令和元年度代表派遣について、実施計画に基づき、派遣者を決定する（９～３月期）とともに、実施計画の追加及び派遣者を決定する必要があるため。 | 武内副会長 | 国際学術交流事業に関する内規19条2項及び第21条1項 |
| 提案9 | 令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議<br>(1)代表者の派遣の決定<br>(2)外国人招へい者の決定 | 会長 | B(21-24) | 令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定するとともに、外国人招へい者を決定する必要があるため。<br><br>**※国際委員会７月24日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会7月16日承認** | 武内副会長 | 国際学術交流事業に関する内規53条5項及び56条 |

| | |
|---|---|
| 提案10 | （取下げ） |

６．その他のシンポジウム等

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 提案11 | 公開シンポジウム「災害時におけるICTの役割・反省・今後」 | 情報学委員会委員長 | B(26-28) | 主催：日本学術会議情報学委員会　ＩＴの生む課題検討分科会<br>日時：令和元年9月4日（水）13:00～17:20<br>場所：日本学術会議講堂<br>**※第三部承認** | － | 内規別表第1 |
| 提案12 | 公開シンポジウム「危機を超えて　地域研究からの価値の創造」 | 地域研究委員会委員長 | B(29-30) | 主催：日本学術会議地域研究委員会地域研究基盤強化分科会<br>日時：令和元年10月4日（金）15：00～18：00<br>場所：日本学術会議講堂<br>**※第一部承認** | － | 内規別表第1 |
| 提案13 | 近畿地区会議学術講演会<br>「日本学術会議設立70周年記念・近畿地区学術講演会－学術からの貢献－」 | 科学者委員会委員長 | B(31-32) | 主催：日本学術会議近畿地区会議<br>日時：令和元年10月12日（土）13:00～17:00<br>場所：京都産業大学 むすびわざ館ホール（京都市下京区） | － | 内規別表第2 |
| 提案14 | 公開シンポジウム「口腔と全身のネットワーク　～最先端研究－免疫・神経・内分泌～」 | 歯学委員会委員長 | B(33-34) | 主催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会<br>日時：令和元年10月14日（月）（祝日）9:00～11:00<br>場所：東京歯科大学（東京都千代田区）<br>**※第二部承認** | － | 内規別表第1 |
| 提案15 | 公開シンポジウム「社会調査のオープンサイエンス化へ向けての課題」 | 社会学委員会委員長 | B(35-36) | 主催：日本学術会議社会学委員会社会統計調査アーカイヴ分科会<br>日時：令和元年10月19日（土）14:30～17:15<br>場所：首都大学東京　秋葉原サテライトキャンパス（仮）<br>**※第一部承認** | － | 内規別表第1 |
| 提案16 | 公開シンポジウム「あなたが知りたい防災科学の最前線－激化する気象災害に備える－」 | 防災減災学術連携委員会委員長 | B(37-38) | 主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会<br>日時：令和元年10月19日（土）<br>16：30～18：00<br>場所：名古屋市ささしまライブ24エリア・メインホールB | － | 内規別表第1 |
| 提案17 | 公開シンポジウム<br>「「歴史総合」をめぐって（４）」 | 史学委員会委員長 | B(39) | 主催：日本学術会議史学委員会・史学委員会中高大歴史教育に関する分科会<br>日時：令和元年10月26日（土）<br>13:30～17:30<br>場所：駒澤大学駒沢キャンパス３号館（種月館）３－２０７教場<br>**※第一部承認** | － | 内規別表第1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **提案18** | 公開シンポジウム「日本学術会議の参照基準と大学教育の質保証」 | 会長 | B(41-42) | 主催：日本学術会議大学教育の分野別質保証委員会、科学者委員会学術と教育分科会<br>日時：令和元年10月27日(日)<br>13:00～17:00<br>場所：日本学術会議講堂<br>**※科学者委員会承認**<br>**※シンポジウムの開催自体は6/27幹事会にて承認済。今回は主催の追加のみ。** | ー | 内規別表第1 |
| **提案19** | 公開シンポジウム「気候変動適応に関する農業分野（民間）の取り組み」 | 農学委員会委員長、環境学委員会委員長 | B(43-44) | 主催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、環境学委員会環境科学分科会<br>日時：令和元年10月30日（水）13:00～18:00<br>場所：北海道大学農学部４階大講堂<br>**※第二部・第三部承認** | ー | 内規別表第1 |
| **提案20** | 中国・四国地区会議主催学術講演会<br>「SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた地域研究とイノベーション研究（仮）」 | 科学者委員会委員長 | B(45-46) | 主催：日本学術会議中国・四国地区会議<br>日時：令和元年11月16日（土）13:45～17:30<br>場所：山口大学大学会館　(山口大学吉田キャンパス) | ー | 内規別表第1 |
| **提案21** | 公開シンポジウム「宇宙・空・海 ー フロンティア人工物科学シンポジウム」 | 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長 | B(47-48) | 主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会<br>日時：令和元年11月29日（金）13:00-17:00<br>場所：日本学術会議講堂<br>**※第三部承認** | ー | 内規別表第1 |
| **提案22** | 公開シンポジウム「第５回理論応用力学シンポジウム～力学と新学術の融合Ⅱ～」 | 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長 | B(49-50) | 主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同力学基盤工学分科会<br>日時：令和元年12月9日（月）13:00-17:00<br>場所:日本学術会議講堂<br>**※第三部承認** | ー | 内規別表第1 |
| **提案23** | 公開シンポジウム「国立沖縄自然史博物館の実現に向けて：現状と展望」の幹事会承認の取消しについて | 会長 | B(45-46) | 第279回幹事会（6月27日）において承認された当該シンポジウムについて、分科会主催の要件に適合しなくなったため。 | 石川第二部部長 | 内規別表第1 |

７．後援

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 提案24 | 国際会議の後援をすること | 会長 | － | 以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。<br><br>①<u>天文学における共同参画・ダイバーシティー・インクルージョン</u><br>主催：国際天文学連合C分科会、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、国際天文学連合国際普及室<br>期間：令和元年11月12日（火）～15日（金）<br>場所：国立天文台三鷹キャンパス大セミナー室（東京都三鷹市）<br>参加予定国数：8か国<br>申請者：大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台教授　渡部潤一<br>**※国際委員会7月24日承認、同国際会議主催等検討分科会7月11日承認** | 武内副会長 | 国際学術交流事業に関する内規39条 |
| 提案25 | 国内会議の後援をすること | 会長 | － | 以下の会議について、後援の申請があり、関係する部等に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。<br><br>①<u>女子中高生夏の学校２０１９～科学・技術・人との出会い～</u><br>主催：ＮＰＯ法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト、独立行政法人国立女性教育会館<br>期間：令和元年8月9日（金）～11日（日）<br>場所：独立行政法人国立女性教育会館<br>参加予定者数：約100名<br>申請者：独立行政法人国立女性教育会館理事長　内海房子<br>**※科学者委員会承認**<br><br>②<u>第60回大気環境学会年会</u><br>主催：公益社団法人大気環境学会<br>期間：令和元年9月18日（水）～20日（金）<br>場所：東京農工大学府中キャンパス<br>申請者：公益社団法人大気環境学会会長大原利眞<br>**※第二部、第三部承認**<br><br>③<u>第17回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム</u><br>主催：男女共同参画学協会連絡会<br>期間：令和元年10月12日（土）<br>場所：お茶の水女子大学共通講義棟１号館及び２号館<br>参加予定者数：200名<br>申請者：男女共同参画学協会連絡会第17期委員長　野尻美保子<br>**※科学者委員会承認** | 会長 | 後援名義使用承認基準3(2)ウ |

## Ⅱ　その他

| | 件名 | 資料(頁) |
|---|---|---|
| １． | 第22期に発出された提言に対する確認の依頼状について | D(1-3) |
| ２． | 今後の総会及び幹事会開催予定<br>　次回幹事会は8月29日（木）13時30分開催 | D(5) |
| ３． | 第179回総会（10/16～18）の日程案等について | D(7) |

提案１

分野別委員会運営要綱（平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改　正　後

別表第1

| 分野別委員会 | 分科会等 | 調査審議事項 | 構成 | 設置期間 |
|---|---|---|---|---|
| | （略） | （略） | （略） | （略） |
| 地域研究委員会 | （略） | （略） | （略） | （略） |
| | 地域研究委員会人文・経済地理学分科会 | （略） | （略） | （略） |
| | 地域研究委員会人文・経済地理学分科会観光小委員会 | 海外からのインバウンド観光客の地方圏への拡大推進戦略とオーバーツーリズムへの対応の審議に関すること | 20名以内の会員，連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者 | 令和元年7月25日～令和2年9月30日 |
| （略） | （略） | （略） | （略） | （略） |
| 経営学委員会 | 経営学委員会経営学大学院における認証評価の国際通用性に関する分科会 | 1．経営系専門職大学院に対するわが国の認証制度、認証基準<br>2．ビジネススクールに対する海外の認証制度、認証基準<br>3．両者の考え方の違い並びに整合を取る上での工夫<br>4．国際通用性を確保に向けたわが国の認証制度の変革に係る審議に関すること | 14名以内の会員又は連携会員 | 平成29年10月30日～令和2年9月30日 |
| （略） | （略） | （略） | （略） | （略） |

改　正　前

別表第1

| 分野別委員会 | 分科会等 | 調査審議事項 | 構成 | 設置期間 |
|---|---|---|---|---|
| | （略） | （略） | （略） | （略） |
| 地域研究委員会 | （略） | （略） | （略） | （略） |
| | 地域研究委員会人文・経済地理学分科会 | （略） | （略） | （略） |
| | （新規設置） | | | |
| （略） | （略） | （略） | （略） | （略） |
| 経営学委員会 | 経営学委員会経営学大学院における認証評価の国際通用性に関する分科会 | 1．経営系専門職大学院に対するわが国の認証制度、認証基準<br>2．ビジネススクールに対する海外の認証制度、認証基準<br>3．両者の考え方の違い並びに整合を取る上での工夫<br>4．国際通用性を確保に向けたわが国の認証制度の変革に係る審議に関すること | 14名以内の会員又は連携会員 | 平成29年10月30日～令和元年9月30日 |
| （略） | （略） | （略） | （略） | （略） |

この決定は、決定の日から施行する。

地域研究委員会人文・経済地理学分科会小委員会の設置について

分科会等名：観光小委員会

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 所属委員会名（複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。） | 地域研究委員会 |
| 2 | 委員の構成 | ２０名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者 |
| 3 | 設置目的 | 2003 年のビジットジャパンキャンペーンの策定以降、約 10 年間は訪日外国人旅行者の数が伸び悩んでいたが、2013 年以降急増している。ただし、こうした旅行者の目的地は、ゴールデンルートと呼ばれる範囲に限定されることが多く、深刻な人口減少や地域経済の停滞に直面している地方圏に対する貢献は、これまでのところ顕著とは言えない。また、国内の一部の観光地では、オーバーツーリズムの弊害も現れている。<br>現今の日本は、人口をめぐる地域格差が拡大傾向にあるという問題を抱えており、これの緩和のために、訪日外国人観光客の目的地の政策的な誘導や対応が検討される必要がある。 |
| 4 | 審議事項 | 海外からのインバウンド観光客の地方圏への拡大推進戦略とオーバーツーリズムへの対応の審議に関すること |
| 5 | 設置期間 | 令和元年７月２５日～令和２年９月３０日 |
| 6 | 備考 | **※第２４期にて初設置** |

経営学委員会分科会の設置について

分科会等名：経営学大学院における認証評価の国際通用性に関する分科会

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 所属委員会名（複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。） | 経営学委員会 |
| 2 | 委員の構成 | １４名以内の会員又は連携会員 |
| 3 | 設置目的 | 大学院教育の質を保証し、社会が求める人材を輩出するため、関係業界等との連携による人材養成機能の強化と育成人材の国際通用性の確保が必要である。産業界からは経営系専門職大学院の教育に対して国際的な同等性・通用性について疑問を出され、海外の認証機関の認証を受けるべきとの議論がある。本分科会では中央教育審議会専門職大学院 WG の報告(2016 年８月)や日本学術会議の報告(2017 年５月)を踏まえ、国内外の経営学大学院教育および認証制度に詳しい会員、連携会員を中心に、わが国の認証制度と海外の国際認証制度との整合を図りつつ、わが国の認証制度の国際通用性を確保する方策について検討し、提言をまとめる。 |
| 4 | 審議事項 | １．経営系専門職大学院に対するわが国の認証制度、認証基準<br>２．ビジネススクールに対する海外の認証制度、認証基準<br>３．両者の考え方の違い並びに整合を取る上での工夫<br>４．国際通用性を確保に向けたわが国の認証制度の変革<br>に係る審議に関すること |
| 5 | 設置期間 | 平成 29 年 10 月 30 日～令和 2 年 9 月 30 日 |
| 6 | 備考 | **※設置期間の変更（設置期限を令和元年９月３０日から令和２年９月 30 日に延長）** |

提案２

若手アカデミー分科会の設置について

分科会名：イノベーションに向けた社会連携分科会

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 所属委員会名 | 若手アカデミー |
| 2 | 委員の構成 | ２５名以内の会員又は連携会員 |
| 3 | 設置目的 | 科学技術イノベーションをめぐる大変革時代が到来する中、学術には、社会との連携を深めながら、広い視野に立って検討することが求められる。そこで、多様な学術分野の若手科学者から構成される若手アカデミーの下に分科会を設置し、ウェブサイトや出版を通じた社会への広報活動と、地方を含めた我が国全体の学術・行政・産業・NPO などの関係者との交流活動を通じて、若手科学者による社会連携を推進するとともに、社会連携のあり方や科学技術イノベーションの社会実装など、学術と社会の関係について検討を行う。 |
| 4 | 審議事項 | 広報と交流を通じた社会連携を進める中から、科学技術イノベーションにおける学術と社会の関係についての課題 |
| 5 | 設置期間 | 平成３０年２月２２日～令和２年９月３０日 |
| 6 | 備考 | **※委員の構成の変更（20 名から 25 名に変更）及び改元による表記の修正** |

【若手アカデミー】
○委員の決定（追加１件）

（イノベーションに向けた社会連携分科会）

| 氏　　名 | 所　　属　・　職　　名 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 小野　悠 | 豊橋技術科学大学大学院工学研究科講師 | 連携会員 |
| 松中　学 | 名古屋大学大学院法学研究科教授 | 連携会員 |

提案３

地区会議運営協議会委員の追加の決定について

○中部地区会議運営協議会委員の追加について（追加委員）

（新委員）任期：幹事会承認後から令和２年９月30日

| 氏　　名 | 所　　属　・　職　　名 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 池田　素子 | 名古屋大学大学院生命農学研究科教授 | 第二部会員 |
| 久木田　直江 | 静岡大学人文社会科学部教授 | 連携会員 |

追加の理由：

中部地区会議運営協議会において、委員の退任により第二部関係の委員が少なくなり、また、静岡県在住の委員がいなくなったことから、第二部に関係した活動及び静岡地区における活動のため、必要な委員を追加するもの。

追加後の運営協議会委員数：１１名

【参考】

●日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

（地区会議運営協議会及び事務局）

第６　各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。

２　各地区に所属する会員は、互選により９名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は１２名を超えないものとする。

提案７

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

| | 団体名 | 概　　要 |
|---|---|---|
| 1 | 東海公衆衛生学会 | 本団体は、公衆衛生活動に携わる医師・保健師、大学・研究機関の研究者などを中心に、地域の公衆衛生上の諸問題についての調査や研究を奨励し、学術大会、広報活動、学会員の人的ネットワークなどによりその活動を支援していくことを目的とした学会である。 |
| 2 | 日本健康支援学会 | 本団体は、保健・福祉・医療におけるシステムの再編ならびに統合と、マンパワーの開発を念頭におき、健康科学の新たなアプローチを機軸とし、健康増進や健康支援の理論的研究とその実践を行うことを目的とするものである。 |
| 3 | 日本簿記学会 | 本団体は、簿記の理論、実務及び教育などの振興をはかり、会計学及び会計実務の一層の発展に寄与することを目的とするものである。 |
| 4 | ファンクショナルフード学会 | 本団体は、グルコサミンをはじめとする様々な機能性食品素材について、医学、薬学、栄養学、獣医学及び農学研究に関する発表、情報の交換、啓発活動を行うことにより、我が国における学術の発展と健康増進に寄与することを目的とするものである。 |

提案８

# 令和元年度代表派遣実施計画に基づく9-3月期の派遣候補者の決定について

| 番号 | 会議名称 | 会期 | | 開催地（国） | 派遣候補者（職　名） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 計 | | |
| 1 | アジア科学アカデミー・科学協力連合（AASSA）理事会 | 9月23日～9月25日 | 3日 | ソウル（韓国） | 吉野　博<br>連携会員<br>（東北大学名誉教授、秋田県立大学客員教授、前橋工科大学客員教授） |
| 2 | 第24回国際社会科学団体連盟（IFSSO）総会 | 11月1日～11月3日 | 3日 | シャンルウルファ（トルコ） | 上杉　富之<br>連携会員<br>（成城大学文芸学部/大学院文学研究科教授・グローカル研究センター長） |
| 3 | 世界工学団体連盟（WFEO）総会 | 11月18日～11月24日 | 7日 | メルボルン（オーストラリア） | 塚原　健一<br>連携会員<br>（九州大学工学研究院教授） |
| 4 | 世界科学フォーラム（WSF）総会 | 11月20日～11月23日 | 4日 | ブタペスト（ハンガリー） | 武内　和彦<br>第二部会員<br>（公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学特任教授） |
| 5 | 国際科学史技術史科学哲学/科学史技術史部門(IUPHS/DHST）評議会 | 12月6日～12月8日 | 3日 | プラハ（チェコ） | 橋本　毅彦<br>連携会員<br>（東京大学大学院総合文化研究科教授） |
| 6 | 国際地質科学連合(IUGS)理事会 | 1月14日～1月18日 | 5日 | 釜山（大韓民国） | 北里　洋<br>連携会員<br>（国立大学法人東京海洋大学特任教授） |

| 番号 | 会議名称 | 会期 | | 開催地（国） | 派遣候補者（職　名） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 計 | | |
| 7 | 国際地質学連合(IUGS)総会・第36回万国地質学会議 | 2月29日～3月9日 | 10日 | デリー（インド） | 北里　洋<br>連携会員<br>（国立大学法人東京海洋大学特任教授） |
| 8 | 宇宙空間研究委員会(COSPAR) 第43回総会プログラム委員会・科学諮問委員会 | 3月16日～3月18日 | 3日 | パリ（フランス） | 中村　卓司<br>連携会員<br>（情報・システム研究機構国立極地研究所所長） |

# 令和元年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和元年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定を行う。

| | 会議名称 | 会　期 | 開催地<br>（国） | 派遣候補者<br>（職名） | 内　　容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 世界科学フォーラム（WSF）総会 | 11 月 19 日<br>～<br>11 月 23 日 | ブダペスト<br>（ハンガリー） | 岸村　顕広<br>連携会員<br>（九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授） | ・代表派遣の追加<br>・派遣者の決定<br>※WSF 総会で、サイドイベントを開催予定。 |
| 2 | 世界科学フォーラム（WSF）総会 | 11 月 19 日<br>～<br>11 月 23 日 | ブダペスト<br>（ハンガリー） | 安田　仁奈<br>連携会員<br>（宮崎大学農学部准教授） | ・代表派遣の追加<br>・派遣者の決定<br>※WSF 総会で、サイドイベントを開催予定。 |
| 3 | 世界科学フォーラム（WSF）総会 | 11 月 19 日<br>～<br>11 月 23 日 | ブダペスト<br>（ハンガリー） | 新福　洋子<br>特任連携会員<br>（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻家族看護学講座准教授） | ・代表派遣の追加<br>・派遣者の決定<br>※WSF 総会で、サイドイベントを開催予定。 |

提案９

## 令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

| 番号 | 国際会議等 | 会　　期 | 計 | 開催地及び用務地 | 派遣候補者<br>（職名） | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC） | 10 月 29 日<br>～<br>10 月 31 日 | 3 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | 春日　文子<br>連携会員<br>（国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー） | 第２区分 |

※令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（平成 31 年 2 月 28 日日本学術会議第 275 回幹事会決定）に基づく区分

【参考】

# 令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

（平成３１年２月２８日
日本学術会議第２７５回幹事会決定）

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和元年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、令和元年度の内規第 51 条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第１区分
- フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- 本年度、AC 及び GC は各一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第２区分
- フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- 具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究プロジェクトに関する会議、タスクフォース及び KAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。
- 上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第３区分
- フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。
- 上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりが大きなものを優先する。
- さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※様式記載省略

令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議への外国人招へい者について

| 番号 | 国際会議等 | 会　　期 | 計 | 開催地及び用務地 | 招へい候補者氏名<br>役職<br>（国名） | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC） | 10 月 27 日<br>～<br>11 月 1 日 | 6 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | James Crawford<br>Research Scientist, NASA Langley Research Center<br>（アメリカ） | 科学運営委員会委員として参加するため |
| 2 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC） | 10 月 27 日<br>～<br>11 月 1 日 | 6 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | Greg Frost<br>Research Chemist, National Oceanic & Atmospheric Administration<br>（アメリカ） | 科学運営委員会委員として参加するため |
| 3 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC） | 10 月 27 日<br>～<br>11 月 1 日 | 6 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | Mei Zheng<br>Professor, Peking University<br>（中国） | 科学運営委員会委員として参加するため |
| 4 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC） | 10 月 27 日<br>～<br>11 月 1 日 | 6 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | Lisa Emberson<br>Professor, Environment & Geography Department, University of York<br>（英国） | 科学運営委員会委員として参加するため |
| 5 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC）） | 10 月 27 日<br>～<br>11 月 1 日 | 6 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | Christian George<br>Deputy-director, Research Institute on Catalysis and the Environment at Lyon - IRCELYON, CNRS-University Lyon 1<br>（フランス） | 科学運営委員会委員として参加するため |
| 6 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC） | 10 月 27 日<br>～<br>11 月 1 日 | 6 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | Clare Murphy<br>Professor, University of Wollongong<br>（オーストラリア） | 科学運営委員会委員として参加するため |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC） | 10 月 27 日<br>～<br>11 月 1 日 | 6 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | Louisa Emmons<br><br>Senior Scientist, National Center for Atmospheric Research<br>（アメリカ） | 科学運営委員会委員に 2020 年より就任予定のため参加する必要がある |
| 8 | 第 34 回地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC） | 10 月 27 日<br>～<br>11 月 1 日 | 6 日 | メキシコ<br>メキシコシティ | Santiago Gassó<br><br>Research Scientist, NASA and University of Maryland<br>（アメリカ） | フューチャー・アース SOLAS プロジェクト科学運営委員会委員であり、プロジェクト間の連絡調整担当として参加する必要がある |

提案１０

※取下げ

提案１１

公開シンポジウム「災害時における ICT の役割・反省・今後」の開催について

１．主　催：日本学術会議情報学委員会ＩＴの生む課題検討分科会

２．共　催：国立情報学研究所（予定）

３．後　援：情報処理学会（予定）

４．日　時：令和元年９月４日（水）１３：００～１７：２０

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：有

７．開催趣旨：近年我が国は数多くの自然災害被害を受け、様々な防災・減災の取り組みがなされている。ICT 技術や携帯網の急速な進展に伴い、災害発生後の新たな情報伝達の仕組みも構築されてきている。一方で、電力網や通信網の遮断時に社会不安が増大したり偽情報が伝搬したりするなど、新たな問題も生じてきている。本シンポジウムでは、このような状況を今一度見つめ直し、ＩＣＴの役割について改めて考えるとともに、その限界を直視し、今後について議論する。

８．次　第：
司会：須藤　修（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）

13：00　開会の挨拶：本シンポジウムについて
　　喜連川　優（日本学術会議連携会員、国立情報学研究所長）

13：10 災害と放送（仮題）
　　児野　昭彦（日本放送協会　専務理事・技師長）

13：50 北海道地震での活動（仮題）
　　宇佐見　正士（ＫＤＤＩ株式会社　常勤顧問）

14：30-14：40 休憩

14：40　新たな緊急電力供給策（仮題）
　　越智　文雄（株式会社あかりみらい　代表取締役）

15：20　熊本地震におけるソーシャルネットの役割とＡＩ防災（仮題）
　　江口　清貴（LINE 株式会社　執行役員）

16：00-16：10 休憩

16:10-17:10　総合討論「ＩＣＴをフルに活用した防災への展望」

（司会）東野 輝夫（日本学術会議会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授）
（コメンテーター）児野　昭彦（日本放送協会　専務理事・技師長）
宇佐見　正士（ＫＤＤＩ株式会社　常勤顧問）
越智　文雄（株式会社あかりみらい　代表取締役）
江口　清貴（LINE 株式会社　執行役員）
喜連川　優（日本学術会議連携会員、国立情報学研究所長）

17：10　閉会の辞　安浦 寛人（日本学術会議連携会員、九州大学理事・副学長）
17：20　閉会

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

提案１２

公開シンポジウム「危機を超えて　地域研究からの価値の創造」の開催について

１．主　催：日本学術会議地域研究委員会地域研究基盤強化分科会

２．共　催：未定

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年１０月４日（金）１５：００～１８：００

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：

今日、世界各地では分断、対立、紛争の広まりが顕著である。これらの事象は、グローバルな格差の拡大や環境破壊、資源環境や国際環境の変化などと密接に結びついているが、同時に、そうした問題は、それぞれの地域社会の政治・経済や歴史、地理・自然条件など固有の側面の理解から、具体的な解決の道が見えてくる場合も多い。このような中、特定の地域社会に研究対象を定め、長期にわたりその社会を専門的かつ総合的に理解することを目指してきた地域研究は、その基盤を維持しながらも、個別の地域やディシプリンを超えたより多層的・多元的なヴィジョンを提示する必要に迫られている。その場合、一人の研究者が自らの研究対象を広げていく可能性もあるし、また、複数の研究者や研究機関が連携してそのような問題に取り組むこともあろう。ネットワークづくりの重要性が改めて意識されている所以である。

このような問題意識を背景に、本シンポジウムでは、地域研究者が自らの対象とする地域の研究の中から、どのような価値を創造していくことができるかを議論する。地域研究者として、対象地域を長年にわたり研究するという学問的営みがもつ意義はどこにあるのか。学際的アプローチの持つ強みと限界とはどのようなものか。地域研究から創造できる学問的・社会的価値はありうるのか。これらを、さまざまな地域・学問分野（ディシプリン）を研究対象とする地域研究者に語り合ってもらうことで、創造的・積極的な学問の協働のあり方を考える機会としたい。なお、このシンポジウムは提言「変動する世界と地域の理解に向けて　ネットワーク化による地域研究推進体制の強化（仮題）」の執筆作業の一環として開催される。

８．次　第：

15：00　開会挨拶　　西崎　文子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

第一部　「地域研究と新たな価値の創造　それぞれの地域から」

15：05　高倉浩樹（日本学術会議第一部会員、東北大学大学院東北アジア研究センター教授

15:20　桜井啓子（日本学術会議連携会員、早稲田大学国際学術院教授）

15:35　湖中真哉（静岡県立大学国際関係学部国際関係学科教授）

15:50　竹沢泰子（日本学術会議連携会員、京都大学人文科学研究所教授）

16:05　川島真（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

16:20　窪田幸子（日本学術会議第一部会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授）

16：35－16：45　（　休憩　）

16:45　第二部　パネルディスカッション
「地域研究の協働のあり方を考える　基本理念・体制構築・社会貢献」
パネリスト
宮崎恒二（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学名誉教授）
武内進一（日本学術会議連携会員、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター長、日本貿易振興機構アジア経済研究所上席主任研究員）
小長谷有紀（日本学術会議連携会員、国立民族学博物館超域フィールド科学研究部教授）
河野泰之（日本学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究研究所教授）
宇山智彦（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院スラブ・ユーラシア研究センター教授）
司会　西崎文子

18：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１３

近畿地区会議学術講演会
「日本学術会議設立 70 周年記念・近畿地区学術講演会－学術からの貢献－」の開催について

１　主　催　　日本学術会議近畿地区会議
　　京都産業大学

２　後　援　　公益財団法人　日本学術協力財団　（依頼予定）

３　日　時　　令和元年１０月１２日（土）１３：００～１７：００

４　場　所　　京都産業大学 むすびわざ館　ホール（京都市下京区）

５　開催趣旨

本講演会は，日本学術会議設立 70 周年を記念し，日本学術会議は学術を通して社会にどのような貢献をできるのか，またしているのかを，広く若手を含む研究者や一般市民に周知するとともに，今後，学術会議が何をなすべきかについて議論を深めることを目的とする。

今回は，人口ボーナスを享受した右肩上がりの時代が終わり，人口減少と高齢化の進行の先頭に立つ日本の「未来」について議論したい。もはや海外の「先進」国のモデルを模倣する時代は終わり，自ら考え，試行錯誤を通じて未来を切り開く覚悟が求められている。

学術のさまざまな立場からいくつかの＜未来の語り口＞を提示し，社会で行われるべき討議のための素材を提供したい。また，未来の主人公たる高校生や大学生に広く参加を呼び掛けてみたい。

６．次第

開会挨拶
伊藤　公雄（日本学術会議近畿地区会議代表幹事・日本学術会議第一部会員
・京都産業大学現代社会学部教授）

日本学術会議会長挨拶
山極　寿一（日本学術会議会長・日本学術会議第二部会員・京都大学総長）

趣旨説明
小林　傳司（日本学術会議第一部会員・大阪大学教授・理事・副学長）

講演１　「未来は誰のもの:フューチャーデザインの視点から」
原　圭史郎
（大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター准教授）

講演２　「未来を選ぶために：AI を活用して」
広井　良典（京都大学こころの未来研究センター教授）

講演３　「食とリスクの視点からみた未来」
新山　陽子（日本学術会議連携会員・立命館大学食マネジメント学部教授）

講演４　「Society 5.0 が描く未来」
　東野　輝夫（日本学術会議第三部会員・大阪大学大学院情報科学研究科教授）
講演５　「変容する情報社会と未来像の構想」
　遠藤　薫（日本学術会議第一部会員・学習院大学法学部教授）
全体討論　「※テーマ調整中」
　コーディネータ：小林　傳司（日本学術会議第一部会員・大阪大学教授・理事・副学長）

閉会挨拶
小山田　耕二（日本学術会議第三部会員・京都大学学術情報メディアセンター教授）
全体司会
　髙山　佳奈子（日本学術会議第一部会員・京都大学大学院法学研究科教授）

※下線の講演者等は主催地区会議所属の会員・連携会員

提案１４

公開シンポジウム「口腔と全身のネットワーク　～最先端研究
―免疫・神経・内分泌～」の開催について

１．主　催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会

２．共　催：歯科基礎医学会

３．後　援：日本医歯薬アカデミー（予定）

４．日　時：令和元年１０月１４日（月）（祝日）９：００～１１：００

５．場　所：　東京歯科大学（東京都千代田区）

６．分科会の開催：開催予定

７．開催趣旨：
日本学術会議歯学委員会の第 24 期のテーマは「口腔からの先制医療をめざす口腔科学研究の展開」です。出生から死に至るまで各ライフステージに応じた口腔先制医療のための口腔科学研究を発展させることを目指しています。全ライフステージに渡って健康を維持するためには、食べる・話すといった口腔機能の維持が生涯にわたって不可欠です。我々の体は、高次複雑系からなるソフトウェアネットワークである神経系・免疫系・内分泌代謝系が、各臓器をネットワークでつなぎ、各臓器が互いに影響を及ぼしあっています。近年、臓器間ネットワークを介して様々な生体の恒常性が制御されていることがわかってきました。口腔を知るためには全身における口腔の位置づけに関する理解を深める必要があります。これからの口腔科学研究では、口腔機能と全身機能、さらには口腔疾患と全身疾患の関連を分子および細胞レベルで科学的に実証していかなければなりません。今期の日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会では、歯科基礎医学会学術大会の場をお借りして、「口腔と全身のネットワーク」という観点から、新進気鋭の研究者によるシンポジウムを企画しております。今回は、免疫、神経、内分泌を中心に幅広い学問体系を相互に理解するために、「最先端研究―免疫・神経・内分泌」と題して日本学術会議公開シンポジウムを企画しました。本シンポジウムでは、先駆的に活躍している 4 名の研究者に、免疫学、神経科学および内分泌学を基盤とした口腔と全身のネットワークシステムについてご講演いただき、口腔科学研究を推進し、口腔先制医療への展望を築くことを目指します。

８．次　第：
日本学術会議公開シンポジウム
口腔と全身のネットワーク～最先端研究―免疫・神経・内分泌～
座長：石丸　直澄（日本学術会議連携会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔分子病態学分野教授）
座長：中村　雅典（歯科基礎医学会理事長、昭和大学歯学部口腔解剖学講座教授）

9:00-9:10
座長オーバービュー

9:10-9:35
1.骨免疫学および感染症の最前線
塚崎　雅之（日本学術振興会特別研究員（PD)、東京大学医学研究科免疫学・東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科細菌制御学分野）

9:35-10:00
2. 延髄C1ニューロンを介する新たな抗炎症効果
安部　力（岐阜大学医学部生理学教室准教授）

10:00-10:25
3.アレルギーにおけるネオ・セルフ
小笠原　康悦（日本学術会議連携会員、東北大学加齢医学研究所生体防御学分野・大学院歯学研究科難治疾患・口腔免疫学講座教授）

10:25-10:55
4. マクロファージ・樹状細胞の分化と機能
樗木　俊聡（東京医科歯科大学難治疾患研究所生体防御学分野教授）

10:55-11:00
座長まとめ

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案１５

公開シンポジウム「社会調査のオープンサイエンス化へ向けての課題」の
開催について

１．主　催：日本学術会議社会学委員会社会統計調査アーカイヴ分科会

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年１０月１９日（土）１４：３０～１７：１５

５．場　所：首都大学東京　秋葉原サテライトキャンパス（東京都千代田区）（仮）

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：　社会統計調査アーカイヴ分科会では、学術的研究や調査成果などにアクセスできるオープンサイエンス化について議論を行ってきた。本公開シンポジウムでは、オープンサイエンスを大きなテーマとして、日本および諸外国のデータアーカイヴの現状と課題、ビッグデータの取得と共有、官庁統計、個人情報保護とデータ利用の法的整備について、本分科会の議論の成果を一般市民に向けて発信する。

８．次　第：

14：30　開会のあいさつおよびシンポジウムの趣旨説明
石井クンツ　昌子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）

14：35　データアーカイヴの現状と課題（仮）
佐藤　香（東京大学社会調査・データアーカイヴ研究センター教授）（仮）

15：00　諸外国のデータアーカイヴについて（仮）
真鍋　一史（日本学術会議連携会員、青山学院大学地球社会共生学部地球社会共生学科名誉教授）

15：25　ビッグデータの取得と共有について（仮）
鳥海　不二夫（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻准教授）

15：50－16：00　（　休憩　）

16：00　官庁統計について（仮）
玉野　和志（日本学術会議連携会員、首都大学東京人文科学研究科社会行動専攻教授）

16：25　個人情報保護とデータ利用の法的整備について（仮）
報告者交渉中

16：50　質疑応答

（司会）白波瀬　佐和子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

17：10　閉会のあいさつ

白波瀬　佐和子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

17：15　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１６

公開シンポジウム「あなたが知りたい防災科学の最前線
－激化する気象災害に備える－」の開催について

１．主　催：日本学術会議防災減災学術連携委員会

２．共　催：防災学術連携体

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年１０月１９日（土）１６：３０～１８：００

５．場　所：名古屋市ささしまライブ 24 エリア・メインホールＢ

６．分科会等の開催：なし

７．開催趣旨：

地球温暖化の影響で気象現象は最近激化しており、今後もその傾向は続くと予想されている。今後さらに増える、従来の想定よりも激しい豪雨・暴風や高潮などの気象外乱に対して、防災の準備を着実に進めることが必要である。一方日本学術会議や防災学術連携体（５７学会）では、様々な分野で、気象現象やそれによる災害の軽減に向けての研究が続けられている。

一方、防災には「自助・共助」「地域での連携」が大切で、消防団、町内会や自治体、学校や職場では、防災訓練や教育が続けられている。このような活動と連携して、学術分野で得られている知見を正しく社会に伝えることは、地域の防災力強化のために極めて重要である。

本シンポジウムでは、防災推進国民大会 2019 におけるセッションとして、気象災害を対象として、市民の皆様が知りたい防災科学の最前線をわかりやすく伝える。発表後には、市民の皆様から、防災科学に関する質問やリクエストを受け付け、各分野の研究者がそれに答える。

８．次　第：

司会　　目黒　公郎（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授、防災減災学術連携委員会幹事）

16：30　開会挨拶・趣旨説明

米田　雅子（日本学術会議会員、慶應義塾大学先導研究センター特任教授、防災減災学術連携委員会委員長）

16：35　　防災科学の最前線（10 学会程度より）

17：45　　質問コーナー「あなたの質問に答えます」

18：00　閉会

（下線の講演者等は、主催委員会委員。セッションの講演者 10 名程度と講演タイトルは 8 月中旬に決定する）

＊本案は、防災推進国民大会 2019（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）のセッション企画です。

**提案１７**

公開シンポジウム「「歴史総合」をめぐって（４）」の開催について

１．主　催：日本学術会議史学委員会・史学委員会中高大歴史教育に関する分科会

２．共　催：日本歴史学協会

３．後　援：未定

４．日　時：令和元年１０月２６日（土）１３：３０～１７：３０

５．場　所：駒沢大学駒沢キャンパス３号館（種月館）　３－２０７教場

６．分科会等の開催：開催予定（未定）

７．開催趣旨：歴史教育シンポジウム
「「歴史総合」をめぐって(4)―「歴史総合」の背景」
昨年まで、歴史教育シンポジウムでは、新設科目の歴史総合について、いろいろな方面から検討してきた。歴史総合は、新しい学習指導要領も公表され、教科書の編纂も進行中で、2022 年度から授業も始まる。このような状況を受けて、2019 年度の歴史教育シンポジウムでは、「歴史総合の背景」を検討する。これまでの授業実践の理論化、歴史系科目の目標、歴史総合で実施する授業展開などを提案していただき、歴史総合を含む歴史系科目について討論する。

８．次　第：
13：30　開会挨拶：若尾政希（日本学術会議会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）
13：40　趣旨説明：君島和彦(日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授)
司　　会：中野聡（日本学術会議特別連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）
14：00　報告
加藤公明（国士舘大学客員教授）
主体的な学びを実現する授業づくりの挑戦－「歴史総合」に向けて－
藤野敦（文部科学省教科調査官・国立教育政策研究所教育課程調査官）
歴史領域科目のめざす学習-新学習指導要領「歴史総合」を中心に-
山本勝治（東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭）

学習・評価一体型の「DP 歴史」授業実践－「歴史総合」での活用を視野に入れて－

16：00　総合討論
コメント　久留島典子（日本学術会議会員、東京大学教授）
閉会の挨拶　中野達哉（駒沢大学教授・日本歴史学協会委員長）
17：30　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

※6 月 27 日幹事会承認済みの案件について、主催を追加するもの。

**提案１８**

公開シンポジウム「日本学術会議の参照基準と大学教育の質保証」の開催について

１．主　催：日本学術会議大学教育の分野別質保証委員会、
科学者委員会学術と教育分科会（主催の追加）

２．後　援：文部科学省（予定）

３．日　時：令和元年１０月２７日（日）１３：００～１７：００

４．場　所：日本学術会議講堂

５．開催趣旨：

平成 20 年に文部科学省から審議依頼を受けたことを契機として、日本学術会議は「大学教育の分野別質保証」に取り組み、現在までに 32 の学問分野において教育課程編成上の参照基準を策定した。10 年以上にわたる学術会議の取組みによって、主要な学問分野の参照基準がほぼ出そろいつつある。

その一方で、いくつかの調査を通じて、各大学等が参照基準を必ずしも積極的に活用していない状況にあることも判明している。平成２９年度に、いわゆる３つのポリシーの策定とその公表が各大学に義務付けられた際も、ポリシーの策定のために参照基準を活用した大学は少数にとどまった。

元来参照基準は、各大学の教育の自主性・自律性を可能な限り尊重することを基本にしており、このため、カリキュラム等の標準的・モデル的な具体像を示すのではなく、各学問分野の基本的な理念や方法論を、学士課程教育の文脈の中に位置付けながら、丁寧に説明することに重点を置いている。

こうした特性を持つ参照基準と、各大学での質保証に関する実際の取り組みとに距離があるとすれば、それはなぜなのか。どうしたら両者をつなぐことが可能なのか。この問いに答えるために、本シンポジウムは、新しい動きも紹介しつつ、今日の大学教育が実際に直面している様々な課題に対応する上で、参照基準が存在することの意味を検証し、その具体的な活用の在り方を提案する。

６．次　第（予定）：

13：00 開会の挨拶
三成　美保（日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系））

13：05 講演（15 分）
「日本学術会議の教育課程編成上の参照基準について」（仮題）
北原　和夫（日本学術会議特任連携会員、国際基督教大学名誉教授）

13：20 講演（15 分）
「各大学での質保証への取り組みと参照基準の活用状況」（仮題）
吉田　文（日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

13：35 講演（15 分）
「参照基準に対する現場の大学教員の受け止め」（仮題）
広田　照幸（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

13：50 講演（15 分）

「海外での大学教育の質保証 - 参照基準との関わりを中心に」（仮題）
深堀　總子（九州大学教育改革推進本部企画・評価部門教授）

14：05 講演（40 分）
「九州大学における参照基準を活用した教育課程の編成」（仮題）
※交渉中

14：45 ～ 14：55　休憩

14：55 講演（20 分）
「学習成果を重視した大学教育の質保証と参照基準」（仮題）
松下　佳代（日本学術会議会員、京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
※交渉中

15：15 パネルディスカッション（80 分）
「教育の質保証と参照基準 - 大学教育とアカウンタビリティ」
パネリスト：深堀、松下、九州大学
高祖　敏明（日本学術会議特任連携会員、聖心女子大学学長、
上智大学名誉教授）、
大学改革支援・学位授与機構（※交渉中）
司会：吉田、広田

16：35 会場からの質問（20 分）

16：55 閉会の挨拶（5 分）
北原もしくは高祖

司会：姉川恭子（早稲田大学大学総合研究センター講師）
（下線の講演者等は、主催委員会委員）

提案１９

公開シンポジウム「気候変動適応に関する農業分野（民間）の取り組み」の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、環境学委員会環境科学分科会

２．共　催：なし

３．後　援：北海道大学大学院農学研究院，日本農業気象学会，日本生物環境工学会，日本農学アカデミー，日本農業工学会（予定）

４．日　時：令和元年１０月３０日（水）１３：００～１８：００

５．場　所：北海道大学農学部４階大講堂（札幌市北区）

６．分科会の開催：なし

７．開催趣旨：

気候変動適応策の開発は、社会・科学の中の問題でも最も重要な課題の一つである。国連が定める持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組においても推進され、日本学術会議でも気候変動や SDGs に関しても多くの関連した提言を行っている。さらに、我が国では「気候変動適応法」が平成 30 年に公布され、国、地方公共団体、事業者、国民が連携・協力して適応策を推進するための枠組みが整備された。農業は改めて言うまでもなく、気候変動の影響を最も受けやすい産業であり、その適応策については、これまで公的な研究機関からの成果や行政からの情報発信が多くなされている。一方、民間分野などでも活発な動きもみられるが、これらの実態を深く知る機会は多くない。本シンポジウムでは、気候変動適応に関して、農業分野の民間分野の先進的事例の動向を概観し、産官学連携に向けた研究・技術開発の方向性について議論する。

８．次　第：(予定)

13:00　開会挨拶
仁科弘重（日本学術会議第二部会員、愛媛大学理事・副学長）

13:05　挨拶
西邑隆徳（北海道大学農学研究院長）

13:10　趣旨説明
広田知良（日本学術会議連携会員、農研機構北海道農業研究センターグループ長）

講演：
司会：平野高司（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授）
13:25　温暖化適応ビジネスとは（概観と農業分野への期待と展望）
新美陽大（株式会社日本総合研究所創発戦略センター副主任研究員）
13:55　気象変動に負けない農業確立プロジェクトの取り組み
畠山重文（きたみらい農業協同組合調査役）
14:25　気候変動への対応：近年の異常気象に対するカルビーポテトの取り組み
植村弘之（カルビーポテト株式会社取締役常務執行役員）

＜休憩＞

司会：吉本真由美（日本学術会議連携会員、農研機構農業環境変動研究センター主席研究員）
15:10　気候変動による北海道のワイン産地の確立と日本ワイン発展への取り組み
　　齋藤浩司（北海道ワイン(株) 取締役製造部長）
15:40　気候変動適応に向けた IHI の取り組み
　　大貝 高士（株式会社 IHI 宇宙開発事業推進部事業企画 Gr 主幹）
16:10　気候変化・変動予測を活用した農業適応およびコメント
　　山形俊男（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構アプリケーションラボ特任上席研究員）

＜休憩＞

16:50　総合討論
進行：広田知良（日本学術会議連携会員、農研機構北海道農業研究センターグループ長）

17:50　閉会挨拶
　　真木太一（日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授）

９．関係部の承認の有無：第二部・第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案２０

日本学術会議中国・四国地区会議主催学術講演会
「SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた
地域研究とイノベーション研究（仮)」の開催について

１．主　催：日本学術会議中国・四国地区会議
２．共　催：山口大学
３．後　援：山口県、山口市、宇部市（予定）
４．日　時：令和元年１１月１６日（土）１３：４５～１７：３０
５．場　所：山口大学大学会館　(山口大学吉田キャンパス)

６．開催趣旨：
2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」において記載された国際目標である Sustainable Development Goals（SDGs）は、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成される。SDGs の達成において大学の役割は大きい。山口大学では、「先進科学・イノベーション研究センター」を設置し、21 世紀の課題を解決する異分野融合の先進科学の創成し、地域発科学技術イノベーションを牽引する応用研究・共同研究の推進、および若手研究者や大学院生を中心とするイノベーション人材の育成に取り組んでいる。また、地域にも目も向け、山口学研究プロジェクトを立ち上げ、地域の歴史、風土、文化を知り未来に活かす研究も推進している。これら特徴的なイノベーション研究や地域研究を紹介することで、SDGs の達成に向けた地方大学の役割について考える。

７．次　第（敬称略　以下はすべて予定）：
（全体司会：林里織（山口大学研究推進機構准教授))

(1)開会挨拶　13:45～14:00
武内 和彦 日本学術会議副会長（公益財団法人 地球環境戦略研究機関理事長）
神谷 研二 日本学術会議会員、中国・四国地区会議代表幹事(広島大学副学長)
岡 正朗 山口大学長

(2)基調講演　14:00～14:40
（進行役：田中 和広　山口大学理事・副学長（人事労務・地域連携担当))

『SDG s の最新動向と大学の役割（仮)』
林 裕子　日本学術会議連携会員（山口大学大学院技術経営研究科教授（特命))

(3)講演　14:45～17:25
14:45～15:10　『山口学研究プロジェクトについて（仮)』
田中 和広　山口大学理事・副学長（人事労務・地域連携担当）
15:10-15:35　『古代テクノポリス山口（仮)』
田中 晋作　山口大学人文学部教授

（15:35～15:45　休憩）

（進行役　荊木 康臣 日本学術会議連携会員
（山口大学大学院創成科学研究科教授))
15:45-16:10　『環境 DNA 研究の最前線と SDGs への貢献』

赤松 良久 山口大学大学院創成科学研究科准教授
16:10-16:35 『がんの増殖制御の解明と革新的治療法（仮)』
島田 緑 山口大学共同獣医学部教授
16:35-17:00 『塩分濃度差エネルギー有効利用（仮)』
比嘉 充 山口大学大学院創成科学研究科教授
17:00-17:25 『中高温微生物研究センターの取り組み（仮)』
藥師 寿治 山口大学大学院創成科学研究科教授

(4)閉会挨拶 17:25～17:30
堀 憲次 山口大学理事・副学長（学術研究担当）

※下線は、主催地区会議所属の会員・連携会員

提案２１

公開シンポジウム「宇宙・空・海 － フロンティア人工物科学シンポジウム」の開催について

１．主　催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会

２．共　催：(予定)
一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年１１月２９日（金）１３：００～１７：００

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：
宇宙・空・海は、人間活動が展開される社会に有益なフロンティアであり、その利用技術開発と科学的解明のためのシステムが、フロンティア人工物である。国際的かつ学際的な巨大複雑系であるフロンティア人工物について、社会技術としての新技術開発、社会実装のための科学的アプローチ及び人材育成の観点から議論する。

８．次　第：
１３：００　分科会長趣旨説明
大和 裕幸（日本学術会議連携会員、海上・港湾・航空技術研究所 理事長）
１３：２０　挨拶 － 我が国科学技術の今後とフロンティア人工物 －
上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）
１３：３０　セッション１：無人化・知能化する社会技術としての AI（Autonomous Intelligence）
大岩 寛（産業技術総合研究所サイバーフィジカルセキュリティ研究センターソフトウェア品質保証研究チーム 研究チーム長）（予定）
丸山 宏（株式会社 Preferred Networks　最高戦略責任者）（予定）
１４：３０－１４：４０　（　休憩　）
１４：４０　セッション２：科学技術政策に求められる方法論
稗方 和夫（東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授）（予定）
竹森 祐樹（日本政策投資銀行 企業金融第２部 課長兼航空宇宙室長）（予定）
１５：４０　セッション３：これからの科学技術を担う人材育成について
（司会）鈴木 真二（日本学術会議連携会員、東京大学 未来ビジョン研究センター 特任教授）
（パネラー）大坪 新一郎（国土交通省 海事局 局長）（予定）
中須賀 真一（東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻航空宇宙システム学講 教授）（予定）
海野 光行（日本財団 常務理事）（予定）
袴田 武史（ispace CEO）（予定）
１７：００　閉会

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

提案２２

公開シンポジウム「第５回理論応用力学シンポジウム
～力学と新学術の融合Ⅱ～」の開催について

１．主　催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同
力学基盤工学分科会

２．共　催：公益社団法人応用物理学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本風工学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、公益社団法人日本地震工学会、一般社団法人日本数学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本物理学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本レオロジー学会、公益社団法人農業農村工学会、日本計算数理工学会、日本混相流学会（予定）

３．協　賛：公益社団法人自動車技術会

４．日　時：令和元年１２月９日（月）１３：００～１７：００

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会の開催：開催予定

７．
開催趣旨：古典力学は、機械工学におけるいわゆる４力学（機械力学・材料力学・流体力学・熱力学）のように、工学分野ごとに確立された基盤学問のように捉えられがちである。しかし、工学が対象とする分野の拡大にともない、理論モデルが構築されていない未解決の力学の問題が顕在化している。これら諸課題に取り組むためには、既存の基盤学問領域の枠にとらわれない広範囲な学問分野との融合が必要である。本シンポジウムは平成 31 年 1 月に開催した第 4 回シンポジウム「力学と新学術の融合」に引き続き，古典力学研究の裾野を広げうる先端的研究に関する最新動向を俯瞰すると同時に、古典力学を基盤とする研究者が異分野と協働して新たに開拓すべき次世代力学研究を展望・討論する。また、学生や若手研究者の参加により、次世代の力学を鼓舞するものとする。

８．次　第：
司会：高木　周（東京大学大学院工学系研究科教授）

13：00　開会の挨拶
梶島　岳夫（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
13：10　基調講演「Biomicrofluidics 未解決連成問題」
金子　真（日本学術会議第三部会員、名城大学理工学研究科教授）
14：00　招待講演（１）「高機能性マイクロジェットの生成法確立と医工学利用基盤の構築」
田川　義之（東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻准教授）
14：30-14:50　（　休憩　）
14：50　招待講演（２）「日本列島全域の地殻活動モニタリングとモデリング」
辻　健（九州大学大学院工学研究院地球資源システム工学部門／教授）

15：20　招待講演（３）「スピンカロリトロニクス：スピンを用いた新しい熱エネルギー制御原理」
内田　健一（物質・材料研究機構 磁性・スピントロニクス材料研究拠点 スピンエネルギーグループ・グループリーダー）
15：50　特別講演「ナノ力学 CREST/さきがけプロジェクト」
北村　隆行（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻教授）
16：20-16：50　総合討論

16：50　閉会の挨拶
岸本　喜久雄（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
17：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

提案２３

公開シンポジウム「国立沖縄自然史博物館の実現に向けて：現状と展望」の
幹事会承認の取消しについて

第 279 回幹事会（6 月 27 日）において承認された公開シンポジウム「国立沖縄自然史博物館の実現に向けて：現状と展望」について、事情の変更により日本学術会議主催の要件に適合しなくなったことから、承認を取り消すこととしたい。

（参考）

公開シンポジウム「国立沖縄自然史博物館の実現に向けて：現状と展望」開催について

１．主　催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同進化学分科会

２．共　催：一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会

３．後　援：なし

４．日　時：令和元年８月７日（水）15:00 ～ 17:00

５．場　所：北海道大学高等教育推進機構
（〒001-0017 北海道札幌市北区北１７条西８丁目）

６．分科会の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：
自然史研究は進化学の重要な基盤である。近年の具体的な取り組みの１つである国立沖縄自然史博物館設立活動の現状を紹介し、情報共有および議論を深める場とする。

８．次第：
15:00-15:05 「開会の辞」
深津 武馬（日本学術会議連携会員/進化学分科会委員長、産業技術総合研究所首席研究員）

15:05-15:35 「国立沖縄自然史博物館の設立活動報告」
岸本 健雄（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学客員教授、東京工業大学名誉教授）

15:35-16:05 「分類学最強説」
馬渡 駿介（北海道大学名誉教授）

16:05-16:35 「自然史博物館の歴史と現代における役割」
松浦 啓一（日本学術会議連携会員、国立科学博物館名誉研究員）

16:35-16:55 総合討論
司会：深津 武馬（日本学術会議連携会員/進化学分科会委員長、産業技術総合研究所首席研究員）

16:55-17:00 「閉会の辞」
斎藤 成也（日本学術会議連携会員/進化学分科会委員、国立遺伝学研究所教授）

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）